

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100675		
法人名	有限会社在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホーム奄美	ユニット名	1F
所在地	沼津市本郷町38－6		
自己評価作成日	平成28年3月3日	評価結果市町村受理日	平成28年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2271100675-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4－1		
訪問調査日	平成28年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた家庭的な環境の下、広い庭での行事などで自然に触れて頂けるようにしております。四季に合わせた行事計画やご利用者様と一緒に行う活動で、共に楽しみ笑顔になれる支援を心掛けています。誕生日にはその方のご希望に沿えるよう馴染みの場所への訪問やご家族様との外出なども行っています。一人ひとりのご利用者様の意思や価値観を尊重し、ご家族様、関係機関と連携をしながら楽しい生活を送って頂けるよう日々支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の思いを最優先事項と捉え、法人の示す「私たちの仕事・介護の約束5か条」を基に丁寧な支援を職員全体で心掛けています。人手不足により多忙を極めているが、柔らかい声掛けで手際よく支援を行なう職員の姿が印象的であった。建物にはエレベーターが設置されており、自由に乗降できる。広い庭は手入れが大変であるものの、菜園や季節の花を咲かせる木々は利用者の楽しみに繋がっている。利用者と職員の安全確保の為、災害時には職員に一斉メールが配信される災害安否確認システムを導入した。また防火委員を中心に、法人全体で総合防災訓練を行なう等、危機管理体制も万全を期している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時に事業所理念及び法人理念の唱和を行い、スタッフ全員で共有する時間を設け実施していくよう努めています。	「敬愛」の精神の下、理念に基づいた支援であり続けるよう職員全体で日々確認している。長く勤務する職員が多く、利用者が親世代という事もあり、理念にもある「寄り添い共に生きる」気持ちで支援の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加したり、防災訓練や清掃活動などにも参加をして地域との交流を深めています。	開設から13年が経過し、より地域に根ざした運営を目指し、地域への働きかけを絶えず行なっている。月2回の事業所周辺清掃や地区神社の祭典時に行なう草刈りボランティアにも参加し、事業所として地域に還元できる活動を継続中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際にその時々々の情報、状況を報告し説明しています。また相談も随時受付けております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度実施し、ご利用者様の生活状況や実施前後の行事についてなどの報告をしています。	土曜開催が定例の為、市の職員の出席が難しいが地域包括支援センター職員や介護相談員・家族・利用者が出席し、現状報告を定期的に行なっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	沼津市介護相談員の方の訪問が月に一度あり、意見交換を行うと共に、2カ月に1度市南部地区のGH連絡会があり、そちらで沼津市担当の方、地域包括支援センター、GH各事業所の方との意見交換を行っています。	市の介護相談員が定期的に訪れ、利用者とのコミュニケーションを図っている。また事業所からも実情の報告を行なっている。グループホーム連絡会は他事業所の状況を知る機会として捉え、得た情報は運営に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時や申送り時などに事例を報告し注意を促す様にしています。	介護施設における身体拘束の問題が大きく取りざたされている今、映像を交え問題点を職員と話し合った。「介護のプロとしてこれからも拘束のないケアを実践していきたい」と話す管理者の言葉が印象的であった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロアミーティング、全体ミーティングで言葉遣いや支援方法について確認し防止に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ勉強する機会を設けてはいませんが、実際に制度をご利用されているご利用者様はいらっしゃいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書面の読み合わせを行い説明しております。不明な点についてはいつでもお問い合わせ頂けるよう説明し理解を求めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情報告と意見箱の設置を行っています。月に一度は介護相談員様が来設し、ご利用者様の声を聞いて頂く機会を設けています。	頻繁に面会のある家族に対しては、その都度要望を聞き運営に反映させている。生活保護者や家族のいない利用者には日常から意向を汲み取り、意見や不満などを職員で話し合い解決できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアミーティング、全体ミーティングでは研修記録として提出してもらい、それに対して管理者からコメントを記入し、開示しフィードバックしています。	日常出される職員の意見を、各フロアリーダーが取りまとめて管理者へ報告する流れがある。法人はキャリアパス制度を導入しており、職員のスキルアップや労働意欲に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員2回／年、社員2回／年 のペースで会社規定のキャリアパス考課を実施し評価が行われています。またその結果を踏まえフィードバック面談を実施しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や法人外の研修に参加しているよう支援をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会議や会社内外の研修に参加し他事業所との交流を図っています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前アセスメントを行いサービスの方向性をスタッフ間で共有、課題を洗い出しコミュニケーションが図れるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前にご本人様の望む生活、どのような支援を行う事が出来るのかをご家族にお聞きし、ホームでの生活に馴染んで頂けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは話をしっかり伺い、ご家族様が理解して頂けるよう分かりやすい言葉での説明を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援することで出来る事などは一緒に取り組み、作品づくりや清掃など出来る力を引き出せるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様との団欒の時間を大切にし、誕生日にはご本人様の要望を伺うと同時にご家族様の気持ちも伺い、時には一緒に外出していただくなどご協力頂き行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院受診等での外出時には馴染みのお店で買い物をしたり、思い出の土地を散策したり出来るよう希望をうかがいながら支援しています。	家族の事情や利用者の体調も考慮しつつ、外出時には利用者ゆかりの地へ立ち寄れるよう支援している。管理者からは「利用者の喜びや笑顔に繋がる事であれば出来るだけ努めたい」との言葉があった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の個性を大切にしながら良好な関係性が築けるよう食事時の席など考慮した支援に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族様に対して、いつでも立ち寄って頂けるようお話をしたり、何か困り事があった場合にはお声をかけて頂くよう気軽に声をかけて頂けるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の日々の生活の中でご本人様の意向を把握できるよう努め、ご利用者様本位のプラン作成となるよう行っています。	居室担当が主に利用者との意思疎通や趣味・好きな事の把握をし、理解するよう努めている。家族の協力により把握できる利用者と身寄りがなく情報が得にくい利用者のどちらであっても、互いが穏やかに暮らせるように職員は心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談では生活歴を伺うとともに、ご家族様にセンター方式シートへの記入していただくようお願いしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録への記録と、特別な事項は朝夕の申送りと申送りノートの活用をする事により全スタッフへの周知、共有を図っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の希望を伺い、一人ひとりの現状把握に努めています。必要時にフロア会議の中で検討する為、担当者が情報収集を行い、必要に応じ関係者の意見を反映させています。	現状の暮らしに見合った介護計画を定期的に作成している。家族には訪問時に意見を聞き、身寄りがない利用者の場合は利用者の暮らしぶりから関係者と協議し介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録への記入を行い、特別な事項についてはミーティングで検討し計画見直しに活かす様にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院への付き添いや買い物同行など要望のあるものについては必要に応じ支援しています。その他主治医療機関と連携しながら医療マッサージの依頼などの支援を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の商店への買い物や、行事の際にご利用者様と一緒に調理した物を近隣の方々に配るなどしながら交流を図るようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医療連携として各ご利用者様が月に2回の訪問診療と急変時のオンコール体制があります。また歯科も月に2回の往診と歯科衛生士によるブラッシングを行っています。	提携医が往診を行ない、利用者の健康管理を行なっている。管理者の不在時や夜間帯における利用者の体調不良や急変時等でも、職員が慌てず冷静な対応が出来るよう「緊急時対応マニュアル」がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回程度巡回看護師が訪問し、健康チェックを行っています。緊急時には内科医療連携先の看護師と24時間の連絡体制をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に主にソーシャルワーカーや看護師から情報をお聞きし、状況の把握に努めた中で退院支援を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に終末期を迎えた時に事業所で出来る事、出来ない事の説明を行い、意向を書面に記入して頂いております。状況に変化があったり、考えが変わった時などには改めて説明し、記入をお願いしています。	長く入居する利用者が多く、生前の意向確認書にて関係者と方針を共有している。事業所での終末期を望む利用者や家族もあり、医療連携と職員への精神的支援については今後の課題である。	事業所での看取り対応が今後想定される。他の利用者への影響や職員の動揺・不安を軽減し、一丸となって取り組めるよう、早い段階から職員全体で話し合うなどの心積もりをお願いしたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎朝の送り時に連携医療機関から頂いた緊急対応マニュアルを読むことで症状別の対応方法の把握に努めています。また社内研修に参加することで必要な知識の習得に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上、火災・地震発生時の避難訓練を実施しスタッフはもちろんの事、可能な方にはご利用者様にも避難を一緒に行ってもらっています。会社で導入しているメールシステムも月に一度入力する訓練を行っています。	事業所の防火委員会を中心に、通常の訓練をはじめ夜間を想定した訓練などを行なっている。また法人による合同総合訓練には、消防署の協力により本格的な訓練が実施され、職員は公休を訓練日に充てて積極的に参加している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入室する際にはノックと声かけを行います。身体を露出しなければならない排泄つや入浴の支援時の声掛けには適切な声かけを心掛け支援しています。	職員は丁寧な言葉遣いで利用者に接しており、日頃から年長者として敬意を払いながら支援する姿が見られた。管理者は職員に対し「自分が利用者の立場だったら？」と問い、尊厳や尊重を優先した支援であるよう伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中からご本人様の望む生活を伺い、本人が自己決定できるよう支援しています。誕生日には必ずご希望を伺い、希望に沿った企画を実施できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	思い思いに過ごして頂けるよう、日課への無理強いせず個々のペースで過ごして頂けるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を手配し利用して頂いています。馴染みの理美容をご希望の方には一緒に外出する機会を設け支援しています。髪の長い方には髪結いの支援も行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立にはご利用者様の希望を反映できるように心掛け、料理の味付けにも希望を伺ったり、味見をしていただいたり食事を楽しみにして頂けるよう努めています。	利用者が食器を拭く姿が見られた。労働に対する意欲を発揮できる場面を積極的に作っている。事業所菜園では季節の果物や野菜などを共に収穫したり、外出時には弁当を持参するなど日常以外でも楽しめる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量、一日の水分摂取量は記録し、必要に応じ主治医と相談し、栄養補助飲料の処方を行って頂いております。食べやすい、飲みやすい形態での提供を行う為、必要に応じ刻み食やトロミを付けた食提供をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはその方の状況に応じた支援を行い、夜間は義歯を預かり洗浄しています。月に2回の歯科往診と必要な方にはブラッシングを行って頂き、口腔ケア時の注意点などをスタッフ、ご利用者様に指導して頂いております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、パターンの把握に努め自立支援を心掛けています。極力トイレでの排泄をして頂けるようスタッフ間で話し合いをしながらオムツを使用の方もリハビリパンツに移行できるよう努めています。	一人ひとりの生活リズムに沿った支援を心掛け、排泄チェック表には細かく記入がされていた。時折声掛けに対して拒否もあるが、排泄の失敗に繋がらないよう様々な声掛けを試し、尊厳を傷つけない支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖やオリーブオイル、繊維質の多い職員を摂って頂けるよう調理に工夫をするようにしています。また活動時には体を動かしてもらうよう心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴して頂くことは当たり前とし、「今から入りたい」という希望にも柔軟に対応するようにしています。	利用者の体調に合わせた入浴支援を行なっている。午前中の入浴を主としているが、希望があればその都度対応している。柚子湯や菖蒲湯などで入浴に変化をつけており、今後は入浴剤で日々の楽しみに繋げようと検討中である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の体調や希望に合わせ休んで頂くようにしています。希望に応じ暖かい飲み物や湯たんぽを提供し落ち着いて休んで頂けるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は個人ファイルに綴じ、スタッフがいつでも確認出来るようにしています。服薬時には服薬チェック表を活用し、薬の変更時にはチェック表への記載をするとともに申し送りなどで情報共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のコミュニケーションの中で出来る事を考え、ミーティングで報告、ケアプランに活かすようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日にはテラスに出て外気に触れる事を心掛けています。散歩の希望などにも柔軟に対応するよう努めています。	介護度が進み、日常的な散歩が困難な利用者も多いが、天候や体調のよい日には短時間でも外に出て気分転換を図っている。花見やみかん狩り・菊まつりなどの遠出の外出も年に数回あり、日常とは違った利用者の笑顔を引き出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の要望によりご家族と相談、買い物を楽しんで頂けるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	馴染みの相手への電話の希望や季節の葉書の投函などの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよい環境になるように努め、季節の行事に合わせた掲示物にするなど心掛けています。	共用空間にはカラオケ機器があり、利用者の楽しみのひとつとなっている。建物自体は古いが清掃が行き届いており、清潔を維持する為の職員の努力が見られた。外部評価調査は3月で、玄関先には季節を彩る雛人形が飾られてあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	事業所内はエレベーターで上下階の行き来が自由となっており、ご利用者様だけの移動もしながらお好きな場所で過ごして頂けるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様にとって大切な物や馴染みの者を持ち込んで頂き、居心地の良い生活になるようご家族にお話しし、ご協力頂いております。	居室には自由な配置で使い慣れたものが置かれている。身寄りのない利用者の居室には、退去した利用者が残していった家具等を使い、生活感や和める雰囲気作りに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線上に障害物は置かないよう配慮し、動きやすいよう配慮しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100675		
法人名	有限会社在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホーム奄美	ユニット名	2F
所在地	沼津市本郷町38－6		
自己評価作成日	平成28年3月3日	評価結果市町村受理日	平成28年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail.2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2271100675-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4－1		
訪問調査日	平成28年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた家庭的な環境の下、広い庭での行事などで自然に触れて頂けるようにしております。四季に合わせた行事計画やご利用者様と一緒にを行う活動で、共に楽しみ笑顔になれる支援を心掛けています。誕生日にはその方のご希望に沿えるよう馴染みの場所への訪問やご家族様との外出なども行っています。一人ひとりのご利用者様の意思や価値観を尊重し、ご家族様、関係機関と連携をしながら楽しい生活を送って頂けるよう日々支援しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時に事業所理念及び法人理念の唱和を行い、スタッフ全員で共有する時間を設け実施していくよう努めています。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加したり、防災訓練や清掃活動などにも参加をして地域との交流を深めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際にその時々での情報、状況を報告し説明しています。また相談も随時受付けております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度実施し、ご利用者様の生活状況や実施前後の行事についてなどの報告をしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	沼津市介護相談員の方の訪問が月に一度あり、意見交換を行うと共に、2カ月に1度市南部地区のGH連絡会があり、そちらで沼津市担当の方、地域包括支援センター、GH各事業所の方との意見交換を行っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時や送り時などに事例報告などで注意を促し、全スタッフが認識しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待、スピーチロックが行われないよう、言葉かけや支援方法についてミーティング内で話し合いを行うとともに、社内研修において虐待についても学ぶ機会を設けています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ勉強する機会を設けてはいませんが、実際に制度をご利用されているご利用者様はいらっしゃいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書面の読み合わせを行い説明しております。不明な点についてはいつでもお問い合わせ頂けるよう説明し理解を求めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情報告と意見箱の設置を行っています。月に一度は介護相談員様が来設し、ご利用者様の声を聞いて頂く機会を設けています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアミーティング、全体ミーティングでは研修記録として提出してもらい、それに対して管理者からコメントを記入し、開示しフィードバックしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員2回／年、社員2回／年 のペースで会社規定のキャリアパス考課を実施し評価が行われています。またその結果を踏まえフィードバック面談を実施しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や法人外の研修に参加が出来るよう情報提供をするなど支援をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会議や会社内外の研修に参加し他事業所との交流を図っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前アセスメントを行いサービスの方向性をスタッフ間で共有、課題を洗い出しコミュニケーションが図れるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前にご本人様の望む生活、どのような支援を行う事が出来るのかをご家族にお聞きし、ホームでの生活に馴染んで頂けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは話をしっかり伺い、ご家族様が理解して頂けるよう分かりやすい言葉での説明を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	清掃や調理など一緒に取り組む事の出来る事は行う事で出来る力を維持・継続し自立支援に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にご協力頂き、自宅への帰宅やお墓参り、誕生日外出への付き添いなどをお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院受診後にはご家族様の勤務するお店への買い物や誕生日には馴染みの店や昔から好んでいたという場所への外出を実施するよう支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の個性を考慮し、職員が仲介しながら関係性が良好になるよう支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族様に対して、いつでも立ち寄って頂けるようお話をしたり、何か困り事があった場合にはお声をかけて頂くよう気軽に声をかけて頂けるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の日々の生活の中でご本人様の意向を把握できるよう努め、ご利用者様本位のプラン作成となるよう行っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談では生活歴を伺うとともに、ご家族様にセンター方式シートへの記入していただくようお願いしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録への記録と、特別な事項は朝夕の申送りと申送りノートの活用をする事により全スタッフへの周知、共有を図っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の希望を伺い、一人ひとりの現状把握に努めています。必要時にフロア会議の中で検討する為、担当者が情報収集を行い、必要に応じ関係者の意見を反映させています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録への記入を行い、特別な事項についてはミーティングで検討し計画見直しに活かす様にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院への付き添いや買い物同行など要望のあるものについて必要に応じ支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受入や近所への買い物、飲食店への外食、地域防災訓練への参加を通じ交流を図るようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医療連携として各ご利用様が月に2回の訪問診療と急変時のオンコール体制があります。また歯科も月に2回の往診と歯科衛生士によるブラッシングを行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回程度巡回看護師が訪問し、健康チェックを行っています。緊急時には内科医療連携先の看護師と24時間の連絡体制をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に主にソーシャルワーカーや看護師から情報をお聞きし、状況の把握に努めた中で退院支援を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に終末期を迎えた時に事業所で出来る事、出来ない事の説明を行い、意向を書面に記入して頂いております。状況に変化があったり、考えが変わった時などには改めて説明し、記入をお願いしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎朝の送り時に連携医療機関から頂いた緊急対応マニュアルを読むことで症状別の対応方法の把握に努めています。また社内研修に参加することで必要な知識の習得に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上、火災・地震発生時の避難訓練を実施しスタッフはもちろんの事、可能な方にはご利用者様にも避難を一緒に行って頂いております。会社で導入しているメールシステムも月に一度入力する訓練を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を損ねる声かけや対応をする事がないように常に全員が意識する中でご利用者様への支援を行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中からご本人様の望む生活を伺い、本人が自己決定できるよう支援しています。誕生日には必ずご希望を伺い、希望に沿った企画を実施できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	思い思いに過ごして頂けるよう、日課への無理強いせず個々のペースで過ごして頂けるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を2カ月に一度のペースで手配し、利用して頂いています。 好きな衣類を来て頂けるよう一緒に準備なども行うようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立にはご利用者様の希望を反映できるように心掛け、料理の味付けにも希望を伺ったり、味見をしていただいたり食事を楽しみにして頂けるよう努めています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量、一日の水分摂取量は記録し、必要に応じ主治医と相談し、栄養補助飲料の処方を行って頂いております。食べやすい、飲みやすい形態での提供を行う為、必要に応じ刻み食やトロミを付けた食提供をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のADLに応じた支援を行い、夜間は義歯を預かり洗浄しています。月に2回の歯科往診と必要な方にはブラッシングを行って頂き、口腔ケア時の注意点などをスタッフ、ご利用者様に指導して頂いております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が継続できるよう安易にオムツの使用は行わないようにし、排泄パターンの把握に努め、失敗が少なくなるよう排泄表を活用しながら対応しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖やオリーブオイル、繊維質の多い職員を摂って頂けるよう調理に工夫をするようにしています。また活動時には体を動かしてもらうよう心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴して頂くことは当たり前とし、「今から入りたい」という希望にも柔軟に対応するようにしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用お客様の体調や希望に合わせて休んで頂くようにしています。希望に応じ暖かい飲み物や湯たんぽを提供し落ち着いて休んで頂けるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は個人ファイルに綴じ、スタッフがいつでも確認出来るようにしています。服薬時には服薬チェック表を活用し、薬の変更時にはチェック表への記載をするとともに申送りなどで情報共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のコミュニケーションの中で出来る事を考え、ミーティングで報告、ケアプランに活かすようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の要望には出来る限り沿う事が出来るように努め、天気の良い日には少しでも外気に触れて頂けるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の要望によりご家族と相談、買い物を楽しんで頂けるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	馴染みの相手への電話の希望や季節の葉書の投函などの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部にはソファを数個設置し、懐かしい音楽を流すことでゆったりと過ごして頂けるよう心掛けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	事業所内はエレベーターで上下階の行き来が自由となっており、ご利用者様だけの移動もしながらお好きな場所で過ごして頂けるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様にとって大切な物や馴染みの者を持ち込んで頂き、居心地の良い生活になるようご家族にお話しし、ご協力頂いております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札を掲げ自分の部屋を分かりやすくしています。共有部や居室の動線上には障害物を置かないようにし、車いすをご自分で操作される方にも安全に移動して頂けるようにしています。		